

# すなばレポート vol.1

令和元年 6月 20日

子どものうちに「遊びきる」ために・・・

## いまこそ「すなば」へ！



↑最後に記念撮影。子ども達も達成感に満ちた表情。

**令和時代の「子どもまつり」**  
今年で第53回目を迎える「津山市子どもまつり」。例年、ステージ発表やクラフト等のブースを設け、主に屋内会場で開催していましたが、今年の実行委員会では「次は外での遊びに目を向けてみては」との声が上がりました。

**「すなば」へ**  
検討を重ね、舞台は「昭和公園（沼第五公園）山北：中央児童館（横）の砂場」に決まりました。ここは、ベットの糞やごみの問題に悩んでおり、児童館や地元町内が対策を重ねるも、なかなか改善せず、感染症等の恐れもあることから、やむを得ず使用禁止となっていました。現地では、公園の隅で砂をかき集め遊ぶ子ども達の姿があり「思いつきり砂場で遊んで欲しい」との思いを実行委員会ですすなばあそび再生プロジェクト」が始動しました。

### 第1部 すなばの再生

5月5日（日・こどもの日）、すなばあそび再生プロジェクト第1部「すなばの再生」を開催しました。

朝10時から、市内の砂場清掃専門業者「サンドラボ」のご協力のもと、子どもから大人まで参加者全員で作業にあたりました。砂を掘り起こしてふるいにかけ、消毒剤をまき、



↑砂を「ふるい」にかける作業

砂場に戻す。5月にしては厳しい日差しの中、想定を上回る砂の量（約8トン！）に苦戦しましたが、なんとか予定通り終わることができました。

作業後、子ども達は早速サラサラになった砂の感触を確かめるよ



→出てきたゴミの一部→

うに遊んでいました。砂場の再生は一段落ですが、子ども達の遊び場を守っていけるよう、プロジェクトはまだ続きます！  
まずは**第1部完了！**



↑作業後きれいな砂場で遊ぶ子ども達



↑再生作業前の砂場。使われていない間に踏み固められ、草が生えてしまっていた。

↑再生作業後の砂場。異物が除去され、空気が入り、ふわふわさらさらの手触りに。

### まなび・あそび★コラム

「すなばにまつわる本のご紹介」  
『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』

ベストセラーとなったロバート・フルガム著のエッセイ集です。この本自体は砂場が主題というわけではありませんが、とにかく代表的な一説といえば、次の部分でしょう。

「人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていないてはならないことを、わたしは全部残らず幼稚園で教わった。（略）」  
「何でもみんなで分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。」

使ったものは必ず元の場所に戻すこと。…（略）

砂場遊びは子ども達の想像力・創造力を育み、体力の向上にも繋がると言われています。それだけでなく、幼少期に家族以外の人と交流できる貴重な場であり、人間関係の基本となるようなふるまい・心がけといった知識を学ぶ場にもなるのです。子ども達の頃の教訓が、人生の基盤を作っているのだと、改めて感じさせられます。

☞すなばあそび再生プロジェクトの活動について、不定期に発行します。

【発行元】津山市子どもまつり実行委員会事務局

〒708-8501 津山市山北520 津山市教育委員会生涯学習課内

☎0868-32-2009 ☉gakushuu@city.tsuyama.lg.jp